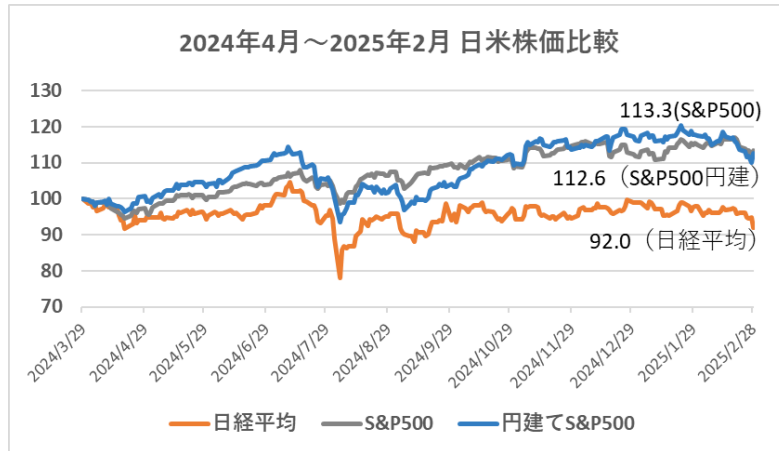


## ATTENTION

### こんな株式市場に誰がした！



このグラフ、見るも無残。昨年4月から11ヶ月の日米株価の推移です。なんと、日経平均と円建S&P500で、22.4%もの騰落差があるのです。昨年7月末の急落時には、日経平均は8月5日までの3営業日に19.5%も急落。その後7月末の水準まで戻するのに10月7日までかかりました。一方でS&P500は、同じ期間6.1%の下落にとどまり、7月末の水準に戻すのに、たったの15日でした。この3日で19.5%もの下落率は、まるでカジノ場です。そして、直近でも、2月28日には、米国がちょっと下がると、びっくりして、日経平均は1,100円安。これは“心身によくない”のです。このようになってしまった背景には、いまだに連綿と続けている株の持ち合い、企業の表向きだけの株主姿勢、そして企業の競争力の劣化があります。さらに、このような株式市場の変動が大きくなってしまった根本に、いまだに棚ざらしの日銀保有の70兆円を超える日本株ETFがあります。本来日銀は、実質株主として株主権を行使すべきなのに横を向いています。日銀が日本株全体の8%を持っているのに、その分の株主権が空洞化しているのです。コーポレートガバナンスが甘くなり、浮動株が少なくなり、株式市場の振れが大きくなります。一部報道によれば、日銀は時間をかけて売ることを検討しているようですが、70兆円を売るとなると、報道がいう年3000億円の売却では、200年以上かかるそうです。こうしたことが、重く株式市場にのしかかって、日本株が低迷しているのです。まさに、これは将来世代への無責任を示しているものです。

## COLUMN

### 人は変わらない、自分向上に注力しろ！

目からうろこの方法が書かれた書がありましたので紹介しましょう。

“コントロールできないものをコントロールしようとする”ことはストレス、心配、消耗をもたらす。ちょっとした気持ちの持ち方で、それから解放される。そのやり方は「自分に関わるものに焦点を当てる」こと。

コントロールできないものをコントロールしようとして、慢性的にストレスを抱えていないか。人を悦ばせようとしたり、自分の期待通りに人を変えようとしたりしても、それは、自分が安心したいがための誤ったやり方だ。それを解決する方法が“させておけ”理論。現実、特に他人の行動、希望や態度をそのままに受け入れれば、ストレスは少なく、自分により活力が出て、やるべきことに集中できる。人を変えようとする間に、自分に投資しなくなり、それは機会(を失う)コストになる。人を変えようとしても、大方は無駄になる。そうして無意識のうち、本来(自分に)注ぐべきエネルギーを無駄にしている。

いい子、優等生、いい友達となって、人を悦ばせようとする人は、自らを疲れさせる。さらにいうと、それは、他を支配しようとする別の形だ。他の人が言っていること、やっていること、考えていることをコントロールすることはできない、これは人間の本質的法則だ。それより、自分自身に注意を向け、もっとも自分がかかわるべきことに力を注いだほうがずっといい。

この“させておけ”理論。SNSで1週間に6000万人を集めたそうです。

The Let Them Theory by Mel Robbins

## MARKET

	(2月末)	(1月末比)
日経平均	37,155.50円	-2,416.99円 (-6.11%)
NYダウ	43,840.91ドル	-703.75ドル (-1.58%)
米ドル	150.70円	-4.55円 (-2.93%)

### 私の書棚より

・悲観は楽観より、賢明で、もっともらしく聞こえる。

・上昇は気づかないうちにゆっくり起き、下落は、無視できないほど早く起きる。

The Psychology of Money, Morgan Housel

94歳のバフェットが書き下す「株主への手紙」

バフェットの2024年の「株主への手紙」を読み終えた。バフェットが自ら手掛ける2つの内の1つ。もう一つは、パークシャー・ハサウェイ株主総会である。この「手紙」を読んでいると、理想的な経営者と株主の関係を感じる。本来あるべき向き合い方で、株主に対しての。

バフェットの株主へのメッセージには、最初から最後まで、誠実さを感じる。そして、同朋であるという意識。数十兆円もの資産を持つ人物でも、われわれと並んでいる、隣のよきおじいさん。バフェット自身が株主に対して、そのように対している。また率直に過ちを認める。間違いをたくさんしてきたという。アメリカの経営者は間違いを認めたがらないが、自分はすぐに言えるという。

さて、この「手紙」の中から、われわれの投資に役立つ情報をお伝えしよう。

1. パークシャーは、1967年に配当を一回だけ出しているが、その後は、配当せずに再投資に回した。結果として、株主は使わずに、複利効果を発揮できた。このバフェットが言う複利効果は、並大抵のものではない。ちなみに、1965年にパークシャーに10,000ドル投資した人は、2024年には5億4900万ドルになっている。おそろしいほどのパワーだ。この「お金を使わない」は、バフェットの真骨頂だが、まさに投資における成功のカギといえる。
2. バフェットを常日頃追っている私が驚いたのは、この「手紙」のなかで、投資先の個別銘柄について、

日本の商社株だけを取り上げて、言及していることだ。アップルや米国の銀行株を大量に売却する中で、日本株の、しかも個別株を取り上げてくれるのは、あまりいいニュースがない日本の株式市場の中で、うれしいし、誇らしい。ここで重要なのは、バフェットが、5つの商社とも、何十年(many decadesと表現)にわたる密接な関係を続けたいとしていることだ。その関係は、バフェットの表現によれば、自分の後継者アベル、その次の世代まで引き継がれようとしている。まさに、売ることのない超長期投資なのである。このところは、このところバフェットは短期で売ることが多くなり、商社株もいずれ売るのはないかとする見方があるが、見誤ってはいけないところである。

バフェットは、これら商社との協業を望んでいて、後継のグレッグも何度も商社首脳と会っている。現在のところ、伊藤忠商事が、パークシャー傘下の下着ブランド、フルーツオブザルームの日本を含むアジアでの販売権を取得している。後に続く共同プロジェクトが次々に出てくることを願いたい。バフェットも、それを最も望んでいることだろう。

バフェットの株主への手紙は、投資だけでなく、人間としてのふるまい方、生き方、仕事への姿勢、人との接し方など、いつも学ぶことがたくさんある。だからこそ、この「株主への手紙」を読了した後の、なんとも言えない心地よさは代えがたいものがある。60周年の記念総会となる今年の株主総会で、バフェットに会えるのが楽しみである。

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に売っていただくのではなく、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス  
代表 尾藤 峰男  
公認投資助言者(RIA)

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス  
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386  
携帯：070-5567-3311 電子メール：info@bfsc.jp